



## AIG 高校生外交官渡米・日本プログラムの紹介（現高1・高2限定）

保険会社 AIG とフリーマン財団が協賛し、AIG 高校生外交官プログラム実行委員会が主催する渡米型と日本国内型の2種類のプログラムをご紹介します。両プログラムとも個人的費用を除いては移動・宿泊に伴う費用負担はありません。以下プログラム別に概要をお知らせします。

### 【渡米プログラム】

派遣人数：合計20名（男女各10名）

派遣先：ワシントン DC・バージニア大学 など

期間：2025年7月19日（土）～8月3日（日）予定

7月19日にオリエンテーション会場集合、21日渡米、8月3日帰国・解散

訪問先：ツアーパート

ワシントン DC 国務省、議会議事堂、IMF/世界銀行、議会図書館 など

アーリントン国立墓地、トーマスジェファーソンメモリアル 等

エクステンジパート

米国高校生とルームメイトとなり、バージニア大学の寮で共同生活をしながら、様々なアクティビティを体験する。午前は語学と文化を学ぶクラス、午後はディスカッションを含むアクティビティや自国を紹介し合うプレゼンテーション、アメリカ文化体験（ハウィン、プロム等）、スポーツ など

費用：解散場所から自宅までの復路飛行機代、新幹線代、米国渡航費、米国内交通費、滞在費、食費、教材費、プログラム参加に関する費用は主催者側の負担

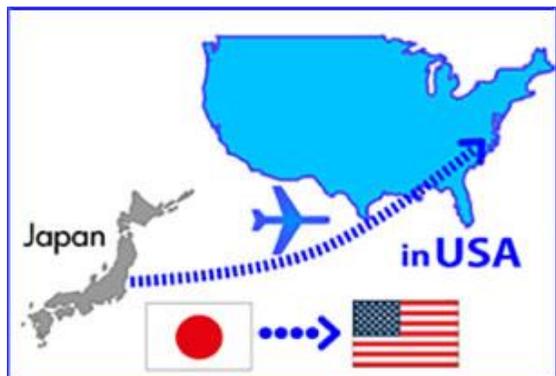
但し、プログラム参加時の飛行機・新幹線・在来線・バスなどの交通費、パスポート・ESTAの申請費用、検査・検査キット購入、予防接種、買い物、小遣い、電話代等は参加者負担

応募資格（一部省略して列挙します）：

- ① 1校からの応募は日本プログラムと合わせ4名まで（共学校の場合は男女各2名まで）
- ② 高等学校在学中で、所属学校長の推薦を受けた者
- ③ 2025年7月現在で高等学校2学年又は3学年に在学している者
- ④ 保護者の承諾を受けた者
- ⑥ 合格後の準備期間からプログラム終了後の解散まで全てのプログラムに他の参加者と一緒に参加できる者（合格後オンラインでの準備に参加できない方は参加を取り消す場合もあります）
- ⑦ 抗原検査の実施、ワクチン接種状況の情報提供に協力できる者  
（新型コロナワクチン接種証明書及びPCR検査陰性証明書の提示が必要になる場合があります。状況によっては追加のPCR検査の実施のお願いをする場合も有り。）
- ⑩ 中学入学以降合計365日以上海外滞在経験を持たない者（留学・旅行も含む）

## 選考方法

- ①一次選考 書類選考 3月初旬までに学校・応募者宛にメールで通知
- ②二次選考 面接（日本語・英語）・グループ実習  
3月22日（土）・23日（日）のいずれか指定された1日  
（生徒側では選択不可）に Web 会議ツールを使用しオンラインで実施予定  
結果は4月初旬に学校・応募者にメールで通知  
(以下の画像は公式 HP より転載)



## 【日本プログラム】

人数：合計16名（男女各8名）

会場：関西地区宿泊研修施設

期間：2025年7月24日（木）～8月4日（月）予定

7月24日（木）昼頃関西地区宿泊研修施設に集合、8月4日（月）午前以最寄り新幹線駅もしくは伊丹空港にて解散

内容：米国より選抜された高校生と日本国内での共同生活を通し、「高校生外交官」として国際交流を体験

クラブ活動：日米参加者が日本文化のクラブに所属。日本側参加者がリードし米国側参加者が日本文化を習得する。（例：茶道、書道、舞踊、剣道、柔道、空手、百人一首など）

ディスカッション：日米参加者が様々な議題について議論する（例：教育、政治、社会問題、戦争と平和、アイデンティティと価値観、キャリアプラン など）

プレゼンテーション：日米参加者がテーマ別のグループに分かれ、自国を英語で紹介し合う（例：教育、政治、地域性、社会問題 など）

語学・文化クラス：米国の教師による、語学と文化を学ぶクラス

その他(過去の例)：京都史跡巡り、アメリカ文化体験、ダンスパーティー、スポーツ大会など  
費用：プログラム参加時の往復飛行機代、新幹線代、滞在費、食費、教材費、プログラム参加に関する費用は主催者側の負担

但し、プログラム参加時の在来線・バスなどの交通費、検査・検査キット購入費用、予防接種、スーツケース郵送費、買い物、小遣い、電話代等は参加者負担

応募資格：渡米プログラムと基本的には共通ですが、日本プログラムについては「海外渡航経験は問わない」という記述があります。

選考方法：渡米プログラムと日程・内容共に共通

(以下の画像は公式 HP より転載)



### 【校内募集スケジュール】

渡米プログラムと日本プログラムはどちらか一方を選択するだけでなく、併願することも可能です。1校から上限4名までという制限があるために応募状況によっては校内選考が必要になります。その後生徒によるエッセイの執筆・保護者同意書・学校長推薦書の作成・送信という手続きを踏む必要があるために、本校では以下のスケジュールで準備を進めます。期限を1日/1分でも守れない場合は校内選考のチャンスを失うものをご理解下さい。

校内エントリー：1月11日（土）午前8時（時間厳守）までにグローバル教育部（2号館2階）に下記の書面を提出して下さい。火曜日は担当者が不在です。

提出物：A4サイズ用紙に以下の要件を全て満たして提出して下さい。PC・手書きいずれでも結構です。

①クラス・番号・氏名②メールアドレス③渡米・日本プログラムどちらを選択するか又は併願を希望するか意思表示④保護者の承諾は得られているかの確認（確認が取れているなら「確認済み」と記入）⑤プログラム参加への動機・意欲（字数は問わない）

選考：応募人数に応じて選考を実施します。

プログラムの詳細は以下の公式 HP からご確認下さい。

<http://www.highschooldiplomats.org/contents/ab-program.html>

## アセアン加盟国中学生招聘交流事業報告

グローバル通信145号でご紹介したアセアン加盟国の中学生と寝食を共にしながら交流するプログラムに本校から2名の生徒が参加しました。どんな収穫があったのか、それぞれ感想を寄せてもらいましたのでお読みいただけますと幸いです。プログラムの概要は以下の通りです。

主催：独立行政法人国立青少年教育振興機構

日時：12月14日（土）10時～15日（日）15時 1泊2日

場所：国立オリンピック記念青少年総合センター（渋谷区代々木神園町3-1）

小田急線参宮橋より徒歩約7分

定員：中学1年生～中学3年生 30名

研修内容：アセアン加盟国（今回はブルネイ、カンボジア、インドネシア、マレーシア、フィリピン）参加者の中学生と、レクリエーションやグループ活動を通して、交流を深めるとともに双方の文化を理解する。

### ■ プログラム（予定）

日時	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22
12/14 (土)				開会式	アイスブレイク	昼食			グループワーク①			レセプション		入浴		就寝
12/15 (日)	起床・朝食	周辺散策		グループワーク②		昼食		グループワーク③	解散							

2年8組 竹村 是清

今回、僕は12月14、15日にオリンピックセンターで行われた「ASEAN加盟国中学生招聘交流事業」に参加してきました。この交流事業はASEAN諸国（ブルネイ、カンボジア、インドネシア、マレーシア、フィリピン）の各国6名の中学生と日本人30名でグループに分かれて共同作業をしていくというものでした。僕はカンボジアのグループで活動をしました。カンボジアは模擬国連で担当したこともあり、どのような国なのか知っていましたが、実際にお互いの文化を知るためのグループ活動（ポスター制作やショートムービーの作成など）をし、理解を深めることができました。

交流事業前は、この事業に参加しても英語があまり話せず、ついていけないのではないかと、そもそも生の英語を聞き取れるのかなど様々な不安がありました。そして交流事業が始まり、最初は緊張していましたが、グループに馴染んでいくにつれその緊張や不安は無くなっていきました。英語が完璧に話せなくても表情やジェスチャーを使ったり、知っている限りの英語でコミュニケーションを取ったりすることで、楽しむことができました。グループ行動をしていくうちに、多くの友人を作れたことは今回の事業に参加して得られた一番大きな財産だと思っています。

今回の交流事業を踏まえて、異文化に触れることの重要性を知る事ができました。このグローバルが進む社会で生きていくためには、自国の文化にとどまらず、他国の様々な文化を知ることが大事であり、互いに受け入れようとする姿勢こそがお互いの理解を深め、本当の意味での「交流」のためには大事だと感じました。それを実体験として得られたことが大切な経験になりました。

今まで生きてきた中で今回の交流事業のように、海外の友人を作るという機会はありませんでした。その中で同じアジアの同年代の友人が多くでき、本当にいい機会になりました。今回の交流事業参加に関わってくださった皆様に心から感謝申し上げます。

1年5組 田代 權世維

今月（12月）国立青少年教育振興機構主催の2024年度アセアン加盟国中学生招聘交流事業交流プログラムに参加してまいりました。本プログラムでは国立オリンピック記念青少年総合センターに宿泊し、様々なプログラムを通してASEAN加盟国（今回はブルネイ、カンボジア、インドネシア、マレーシア、フィリピン）の中学生と交流しました。我々日本人の参加者は国ごとに振り分けられ、その国の方々と交流する形となりました。私はフィリピンのグループに振り分けられ、アイスブレイクなど様々なプログラムを通して交流を深めることができました。お互いの文化について決められたテーマからインタビューするなどのプログラムもあり、今まで知らなかった独自の文化や特徴について理解を深めることができました。レセプションパーティーでは各国が独自の伝統衣装及び踊りを披露してくださり、相手の文化について理解を深めることが出来ました。また、就寝前もみんなでUNOなどの国際的に知られているゲームで遊ぶなどしてお互いの友情関係を築くことが出来ました。



左：田代君 右：竹村君

今号が2024年最後の発行となります。これまでのご愛読に御礼申し上げます。アセアン加盟国の生徒との交流会に2名の生徒が興味を示してくれたというのは情報を掲載した側からすると大変嬉しい出来事でした。主催者側からは特に本校には情報は入っておらず、参加した生徒が偶然来室してくれて初めて知りました。人数は少なくてもこのささやかな通信がきっかけになって自分の世界を広げることにつながるのは原稿を作る励みにもなります。来年以降も生徒諸君の知的好奇心を刺激するような情報をお届けしたいと思います。

高校2年生の英語の試験の解答例を作った際に「採点后記」として書かせてもらったことと重複するのですが、イギリスの権威ある辞書の **Oxford English Dictionary** が選んだ2024年を象徴する語については日本のメディアでも盛んに取り上げられました。"brain rot" (脳の腐敗) という言葉です。年末年始ついつい YouTube などをだらだら見てしまいがちです。その時は楽しくてもただ受け身で動画等を長時間見ることは若者の脳の発達に良い影響を及ぼさないことは明らかです。自らの意思で読書をする・疑問点を調べてみるといった能動的な脳活を心がけたいものです。ではどうか良いお年をお迎え下さい。